

## 南仏治安情報（12月分）

### ● テロ、反社会的活動、大規模デモ（邦人被害なし）

#### （1）コルシカ島発生、憲兵隊宿舎へのロケット砲発射事件

5日早朝、アジャクシオ及びバスティアで憲兵隊の宿舎を狙ってロケット砲が発射され、建物の一部が被害を受けた。幸い負傷者はいない。現場を訪れたヴァルス内相は、「コルシカ住民の安全確保の任務に就いている憲兵隊及びその家族を狙った今回犯行は極めて重大なもの」と批判した。本件犯行声明は出ていないが、事件発生の数日前に民族運動活動家が多数検挙されているところ、その関連性については不明である。

#### （2）トゥールーズ発生、反ユダヤ主義に基づくと見られる示威行為のネット拡散事件

フランスの漫談師ディウドネが反ユダヤ宣伝用に考案したとされる仕草「クネル」（片腕を前下方に伸ばし、もう一方の腕の肘を曲げて胸に当てるポーズ）が極右支持者に広まっているところ、この度モハメッド・メラ事件（2012年3月発生）の襲撃現場となったユダヤ人学校前で、若者が同ポーズを取る写真がネット上に掲載され波紋を呼んでいる。内務省では反ユダヤ主義及び人種憎悪を煽る行動として重視、警察が捜査を開始した。

### ● 殺人（邦人被害なし）

#### （1）マルセイユ、マリニャーヌ発生、殺人準備罪適用事件

2日及び3日、警察の組織犯罪部門がマルセイユ及びマリニャーヌ在住のクルディスタン労働者党（PKK）活動家2名を逮捕した。逮捕容疑は既にパリ等で4名が逮捕された殺人準備罪であり、「革命税」の支払いを拒否したクルド人同胞を暗殺する計画を立てていたところを警察当局が未然に察知したものであった。今回逮捕された男の自宅からは革命税の徴収簿が押収された。

#### （2）トゥールーズ発生、カラシニコフによる殺人事件他

8日深夜、優先治安区域に指定されているイゼール地区の社会住宅棟の立ち並ぶ界隈で、カラシニコフとみられる自動小銃が連射されて若者2名が撃たれうち1人が死亡した。現場付近には薬莖30個と銃2丁が残されていた。警察は麻薬売買関係者の縄張り争いと見て捜査を進めている。なお同地区周辺では、4日と5日にも自動小銃等を連射する事件が発生しており、発砲事件が多発している。

#### （3）マルセイユ発生、少年による老女傷害致死事件

11日夕刻、少年5名が1区ヴューポール駅の改札を飛び越えて突破し

無賃乗車を謀ったが、同所にいた警備員に気付かれ追跡されたことから駅構内の雑踏を押し分けて逃走を図った。その際、エスカレータを駆け下りた少年が老女を突き飛ばし、老女は転倒して階段部に頭部を強打して出血した。少年らは構わず逃走を図ったが後に拘束された。老女は消防隊が駆け付けた当初は意識があったものの、1時間後に搬送先病院で亡くなった。

● 強盗（邦人被害なし）

(1) マルセイユ発生、警官を装った侵入強盗事件

3日朝方、9区 Saint-Marguerite で警官の格好をした2人組の男が自宅を訪れたことから住民男性がこれに応じるべく玄関を開けたところ、男らは住民男性とその叔母を脅迫し、タイラップで縛り付けた。その後、家の中の金目の物を物色したが小額紙幣しか見つけれられず、被害者2名の携帯電話を奪って家を出て行った。警官になりすまして各種犯罪を行う手口は当地でよく使われている。

(2) マルセイユ発生、タバコ店を狙った強盗未遂事件

12月上旬、市内のタバコ販売店に3人の武装強盗が押し入ったが、これに気付いた店主がいち早くシャッターを下ろそうとしたことにより強盗は退散した。店主はさらに強盗を追いかけ、フラッシュ・ボール（硬質ゴム弾を発射する銃）を撃った。弾は運転手と逃走車両に命中したが犯人らはそのまま逃走した。警察では、タバコ店強盗の頻発を受け、強盗に狙われそうな商店に対応策を講じるよう促しており、これが功を奏した模様である。

(3) ニース発生、短時間銀行強盗事件

12日午後、Rue de France 沿いの銀行"Banque Populaire Cote d'Azur"において口座開設客を装った男1名が突如けん銃を取り出して行員を脅し、持ってきた袋に現金を詰めるよう要求した。現金を手にした男は駆け足で逃走。本犯行はわずか30秒の間に完遂された。

(4) マルセイユ発生、ミッキーのマスクで強盗事件

13日夜、ミッキーマウスのマスクを被った2名が13区内のパン屋に押し入り、けん銃で店員を脅しレジの売上金を500ユーロを奪って逃走した。

(5) オーバーニュ発生、クリスマス前のおもちゃ屋を狙った強盗事件

21日夕刻、ポンプ銃で武装した2人組の男がおもちゃ屋"La Grande Recre"に押し入り、店員と客を脅して店の金庫から現金を奪って逃走した。

(6) アヴィニョン発生、スーパーを狙った強盗事件

26日午前中、顔をマスクで覆った男1名がスーパーのチェーン店"DIA"

に押し入り、レジの売上金を奪って逃走した。こうした強盗被害は、過去にマルセイユやアルル等の DIA でも発生している。

## ● 傷害（邦人被害なし）

### （1）BDR 県 Martigue 発生、ナイフによる刺傷事件

1日、白昼の路上で30代男性が何者かにナイフで刺されるという事件が発生した。男性は病院へ運ばれ入院中であるが、命に別状はなかった、犯人は被害者を待ち伏せて犯行に及んだと見られ、警察が捜査を進めている。

### （2）マルセイユ発生、アパート内での銃撃事件

1日から2日にかけての夜間、4区 Chartreux のアパート室内に顔を覆った2人組の男性が押し入り、中にいた男女と言い争いを始め、最終的に押し入った方が持っていたけん銃で室内にいた男性の脚を撃ち負傷させた。

### （3）ペンヌ・ミラボー発生、重傷傷害事件

4日夜、駐車場で何者かに銃撃された男性がマルセイユ市の病院に緊急搬送された。犯人の犯行動機や目的は明らかになっていないものの、被害者男性によるとバーを出て駐車場に辿り着いたところを3人組の覆面の男に襲われており、猟銃でふくらはぎを撃ち抜かれていた。被害者の供述内容が変遷していることもあり、警察は事実関係を慎重に捜査するとしている。

### （4）マルセイユ発生、路上銃撃事件

6日深夜、13区 Chateau-Gombert において、30代男性が路上に駐めていた自分の車に乗ろうとしたところを何者かにカラシニコフで撃たれ脚と背中を負傷した。被害者が警察のブラックリストに載っていたこともあり、警察は事件の背後関係も含め犯人特定のため捜査を進めている。

## ● 薬物関連

### （1）グラスにおける、麻薬製造所の摘発

憲兵隊は、グラス市のアパートにあったコカイン製造所を発見し、12月中にこれを一斉摘発して解体させた。この捜査で末端価格650万ユーロ相当のコカインが押収され9名が逮捕された。

### （2）マルセイユにおける、麻薬密売グループの摘発

マルセイユの捜査当局は12日、16区エスタック地区のアパートに隠されていたコカイン2.3kg、マリファナ2.2kg、大麻樹脂3.3kg及び現金17,400ユーロを押収し、現場にいた男2名を逮捕した。逮捕された2人はこの地

区の密売責任者と売人で、同地区中心部の路上で麻薬を売買しており、顧客から注文があればスクーターでの配達も行っていた。

(3) マルセイユにおける、大麻密売所の摘発

14日、警察が内偵捜査により捜査対象であるアパートの1室にある大麻密売所を摘発し、1kg以上の大麻を押収、アパート前の見張りを含めた4名を逮捕した。

● その他特異事件（邦人被害なし）

(1) PACA地域における、武器密輸入者の一斉検挙

2日、東欧諸国からの武器密輸入に関し、BDR県、ヴォクリューズ県、リヨン近郊、コルシカ島で45人が逮捕された。逮捕されたのは自称武器収集家の中学教師、学生、労働者等であり、今回の検挙によってバルカン半島及びスロヴァキア密輸網の一部が暴かれることとなった。

(2) カルカソンヌ発生、連続放火・器物損壊事件

4日から5日にかけて、夜間路上に駐車してあった車18台やゴミ類が燃やされる事件が発生した。急激な治安悪化に対応すべく、警察は警備要員を増員することとした。なお、この事件が発生する直前には顔を覆った2人組が機動隊の隊舎に侵入しようとした事案も発生しており、関連性を調べている。

(3) マルセイユ発生、窃盗目的と見られる爆発物所持事件

8日未明、16区カビリー通りの仏郵便貯金銀行のATM付近で不審者3名が警察の職務質問を受け、うち2名が現行犯逮捕された。逮捕されたのは22歳と35歳の男で、もう1人は逃走した。職質現場には安全装置周辺にビニールテープが巻かれたM75型手榴弾が落ちており、逮捕された男らの1名のポケットからも同種ビニールテープが発見された。手榴弾は爆発物処理班により無力化され、何らの被害も発生しなかったが、現場の状況から犯人らは手榴弾でATM機を破壊して中の現金を奪おうとしたものと見られている。

(4) 豊胸バッグ製造・販売にかかる詐欺事件（判決）

10日、マルセイユ軽罪裁判所は豊胸バッグ製造のPIP社創業社長に対し、重度詐欺の罪で禁固4年罰金7.5万ユーロを科した。工業用シリコンを用いたバッグを偽って豊胸手術や乳房再建術用として販売したものの。原告は5000人に上る。仏国内だけで約3万人の女性が同社製品を使用しており、製品の疲弊やシリコン漏出による癌発症の不安を抱えて暮らしている。なお、本件は被告が控訴したことから刑の執行は保留となっている。

(5) トゥールーズ周辺における、マンホール盗の連続発生

トゥールーズ自治体共同体によると、2012年の鋳鉄価格上昇以降、下水道の蓋の盗難が相次いで発生し、2013年で被害累計1400個に達した。うちトゥールーズ市内の被害は500個。銅製ケーブルを盗むより転売価格が安いことから、窃盗グループは「質より量」で大量に盗んだものと見られるが、道路上のマンホールがなくなってしまうことから交通事故の危険も生じ、行政当局が無視できない事態となっている。

(6) マルセイユ発生、武装犯による放火事件

14日午前中、14区 **Arnavaux** にある運輸会社に自動小銃とガソリン入り容器を持った3名の覆面男が侵入し、同社の倉庫に火を放った。炎は倉庫内に保管されていた衣類等で勢いを増し、倉庫のあった1.5キロ平米とトラック3台を焼き尽くした。

(7) モンペリエ他発生、食肉偽装事件（被疑者の逮捕）

2011年以降、製薬会社の研究室で血清（破傷風、狂犬病、ジフテリア等）製造に用いられた馬を含む200頭が食用に密売されていたことが発覚し、捜査当局は獣医4名を含む21名を拘束した。手口は、実験に使われた馬を安価で購入し、獣医が出所証明書を偽造して通常価格で業者に転売するというものであった。当局は、当該馬肉が（食べても）有害だという証拠はないとしている。

(8) ヴォクリューズ県 **Pernes** 発生、経験の浅い泥棒の逮捕

18日午前中、泥棒2人組が憲兵隊の裏手にある民家に忍び込み金目の物を盗み出すも、隣人に発見された。慌てた泥棒は自分達の車で逃走を図るも車の鍵が見当たらず、盗んだ物を捨てて畑を走って逃げた。通報で駆け付けた憲兵隊が現場に残された犯人の車を押収した直後、若者1名（犯人）が車を回収しに現場に戻ってきたので、憲兵隊が同人に対し憲兵隊まで取りに来るよう勧め、これに従った若者は事件目撃者の面通し結果により犯人と断定され、その場で逮捕された。

※ ここに掲載した事件は新聞等の公開情報を基にまとめておりますが、掲載した事件以外にも日々各種事件が発生していることを申し添えさせていただきます。